



大部っ子

大部小だより

令和4年10月

「やさしく かしこく たくましく」－自ら学び、ともに生きる児童の育成－

文責：学校長



「教室はまちがうところだ」

吉 岡 優

教室はまちがうところだ

まきた しんじ

教室はまちがうところだ

みんなどしどし手を上げて

まちがった意見を言おうじゃないか

まちがった答えを言おうじゃないか

まちがうことをおそれちゃいけない

まちがったものをわらっちゃいけない

まちがった意見をまちがった答えを

ああじゃあないか こうじゃあないかと

みんなで出しあい 言い合うなかで

ほんとのものを見つけていくのだ

(中 略)

はじめからうまいこと言えるはずないんだ

はじめから答えが当たるはずないんだ

(中 略)

まちがったって誰かがよ

なおしてくれるし教えてくれる

困ったときには先生が

ない知恵しぼって教えるで

そんな教室作ろうやあ



【出典】「教室はまちがうところだ」 2004/4/23 蒔田 晋治 (著), 長谷川 知子(イラスト)

学校で友だちや先生と一緒に学ぶことは、本来は楽しいものです。学習すれば知らなかったことがわかります。できなかったことができるようになったりもします。さらに、先生や友だちとの対話の中から、気づきや新しい発見があります。それこそ、間違いも含めて、いろいろな意見を出し合うことで、「共育（教育・きょういく）」につながるのです。

さて、絵本「教室はまちがうところだ」を知っていますか？一部抜粋して載せています。機会があれば、図書館などで借りて読んでみてください。思えば、私は学級担任をしていた頃に、この詩を教室の見えるところに掲示していました。間違いを乗り越えてつかったものは強いと思います。それもひとりでではなく、学級の仲間とともに乗り越えてつかったものです。そして、そんな学級をみんなで作ってあげていきましょう。みんなのがんばりをとても期待しています。

『セロ弾きのゴーシュ』～劇団らせん館～

宮沢賢治（みやざわ けんじ）をご存じでしょうか。6年生の国語「やまなし」も彼の作品です。みなさんの中にも習ったことを覚えておられる方がおられるかもしれませんね。

【宮沢賢治の主な作品】

『銀河鉄道の夜』 『風の又三郎』 『注文の多い料理店』 『やまなし』
『セロ弾きのゴーシュ』 『春と修羅』 『雨ニモマケズ』

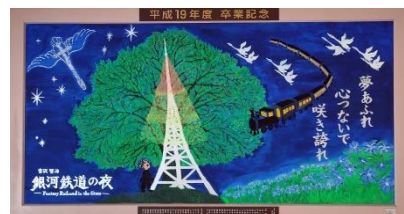


宮沢賢治は、日本を代表する童話作家で、詩人です。仏教と農民生活をベースとした作品で有名です。作品中に登場する架空の理想郷は郷里の岩手県をイメージしたといわれ、彼は<イーハトーヴ (Ihatov)>と命名しました。実は賢治は生前ほぼ無名で、没後、草野心平らの尽力で有名になったそうです。

9月16日（金）、[劇団らせん館](#)のみなさんを招いて、生で観劇をしました。題名は『セロ弾きのゴーシュ』。1934年、賢治（37歳没）の死の翌年に発表された作品です。

【あらすじ】

活動写真館でセロ（チェロ）を担当しているゴーシュ。楽団で10日後の音楽祭に向けて練習に励んでいましたが、ゴーシュはなかなかうまく弾くことができず、楽長からよく叱られています。



ある夜のこと、彼は深夜一人で猛練習に励んでいました。中学年昇降口にある『卒業記念品』すると、しゃべる猫がやってきました。その後、毎夜 カッコウ、子ダヌキ、ねずみの親子などがやって来て、ゴーシュにセロを弾くように勧めました。

そして、いつの間にか、演奏の技術力や豊かな表現力をしっかり身につけ、音楽祭のアンコールでソロの舞台を務めることができるほどに上達していたのでした。

先日の観劇では、子どもたちはそれぞれにいろいろなことを学んだと思います。[大部小だより（デジタル版）](#)では同作品の動画をリンクしていますので、家族で鑑賞しつつ、「何を学べたか。作者は何を伝えたかったのか。」など、親子でコミュニケーションをとっていただければ幸いです。

親子で『人権』について考える



春川先生の講演会の様子

21日（水）、学習参観日を実施しました。参観いただいた道徳の学習では「人とのかかわり」「LGBTQ+」「多文化共生」などなど、各学年様々なテーマで、子どもたちはしっかり考える機会が持てたと思います。また、保護者の皆様におかれても、春川政信先生の「子育て」をテーマとしたお話から、色々気づかされたことがあり、明日からでも実践できることなどを示唆いただくなど学びの多かった講演会だったのではないのでしょうか。春川先生にはもっといろいろな話をお聞きしたいと思いました。